

梅鶯仏教壮年

第10号
2004年
4月4日

定期総会で 本年度の活動計画が決定

3月28日に、会員十名・賛助会員三名の出席のもと、定期総会が開催され、平成16年度の活動計画が決定されました。本年度も多くの皆様のご参加をお待ちしています。

5月30日(日)	第1回例会
7月25日(日)	第2回例会
9月19日(日)	本願寺参拝 研修旅行
11月20日(月)	
1月20日(土)	仏壮報恩講
1月23日(日)	第3回例会
3月19日(土)	定期総会

土と草

母さん知らぬ草の子を、
なん千万の草の育てます。
土はひとりでお茂ったら、
草があおれてしまふのに。
土はかくれて

金子みすゞ

インド仏跡巡拝の 旅の思い出(一)

森 勝 昭



霊鷲山は釈迦様が無
量壽經等の説法をされ
た所

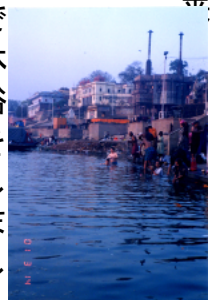
釈迦三大聖地巡りですが、ラジ
ギルでは朝4時に起きて、銃を
持った警備員付きのバスに乗っ
て霊鷲山(りようじゆせん)へ夜明
け前の暗い小道
を途中から30
分ほど歩いて、
ご来光を仰ぎな
がら参拝法要を
しました。
ラジギルは高
速道路をバスで
走ったが、これ
が高速道路かと
不安もあった。
道には牛や豚が歩
いていたり、ガ
タガタ道で日本
道とは比べもの
にもなりません。
ブダガヤは、お
釈迦様が菩提樹
の下で禅定に入
られた聖地です。
高速度道路で約
6時間位ゆられ
て、サマルタヘ
に到着。ここは
釈迦様が初めて
説法された、初
めにお釈迦
教団が誕生した
大切な聖地と
されています。



観光地タージマハールの
アグラ城

で伝えて来られ
た先人の苦勞に
改めて感謝する
とともに、お念
仏に生かされて
身きてゐる我が
身を、改めて悦
ぶことのできた
旅であった。
*写真・解説一部住職

朝5時に起きて
たガンジス河で
光を仰ぎました。
ここでは、小生
と多賀町から来
た(少しおっちょ
こよいな面もあ
ったかな・・・)。
インド国鉄の寝
台列車(インド
では10分15分
遅れは定刻で
す)でタージマ
ハールのアグラ
城を見学してニ
ューデリーへ。
インドという国
は不思議な国で
何かはまり込ん
でしまひ、暑い
大地を、何分の
目的で人々が歩
いているのか、
そこには一つの
エネルギーと躍
動を覚える。
どの仏跡でも深
く永い仏教歴史
を受け、お釈迦
様の教えを今日
まで伝えて来ら
れた先人の苦勞
に改めて感謝す
るとともに、お
念仏に生かされ
身きてゐる我が
身を、改めて悦
ぶことのできた
旅であった。



ここで沐浴をしまし

題材法話

○目覚しい科学技術の進歩

10 数年前に科学技術庁が、今後30年間の科学技術の進歩状況を予測して発表したことがありました。それには、エイズやガンの治療法が確立し、人間の頭脳と変わらない働きをする第5世代のコンピュータが出現し、時速500キロで走るリニアモーターカーが実用化されるなどがあげられていました。つまり2020年頃には、そういった時代が訪れるということですが、すでに今や現実味を帯びてきています。

いったいどこまで技術の進歩が進むのか想像もつきません。

○見抜いておられた お釈迦様

実は驚くべきことに、三千年もの昔にお釈迦様は、一人間が空を飛ぶようになれることも有り得る」と仰っているのです。全く科学技術といったものがない時代

に、人間の可能性を、お釈迦様の鋭い洞察力で見事に見抜いておられたのです。ところが同時に、お釈迦様は、人間が空を飛ぶようになっても、人間の本質、つまり生老病死の苦、煩惱具足の実は何ら変わることはない。むしろ、仏教の正しい教えが薄らいでいくために、人間の心は次第に貧しくなっていくと仰られているのです。これが末法思想であります。

○末法五濁の世

お釈迦様が亡くなられてからの五百年間を正法の時代といい、仏教の正しい教えと、それを実践できる人（覚者）がいる時代でありますが、その後は像法の時代といい、教えは残るが実践できる人がいなくなるといわれました。そしてその後二千年が経つたら末法の時代に入り、教えそのものも薄らいでいくといわれています。

二千年で、現在ももちろん末法の時代です。このお釈迦様の言葉は非常に説得力があります。実感として伝わってきます。確かに人間が空を飛ぶどころか宇宙にまでいく時代になりましたが、人間としての根本の苦しみはなんら変わっていませんし、それどころか心がより殺伐としてきているように思われます。

○お釈迦様の正意

ところが大なることは、お釈迦様は単に末法の時代になつたらだめだと突き放しておられるのではないのです。たとえ末法の世であつても、弥陀本願による念仏の教えによつてのみ、衆生（私達）が救われていくのだと最後のご説法で示されてゐるのです。つまり、お釈迦様自身、本當にお説きになりたいと思われた正意は、阿弥陀様のご本願のみ教えだったのです。

○親鸞様のご和讃

親鸞様はこのことを和讃

釈迦如来かくれましまして
二千余年になりたまふ
正像の二時はおはりにき
如來の遺弟悲泣せよ

正像末の三時には
彌陀の本願ひろまれり
像季末法のこの世には
諸善竜宮にいたりたまふ

像末五濁の世となりて
 釈迦の遺教かくれしむ
 弥陀の悲願ひろまりて
 念仏往生さかりなり

と詠われて、悦んでおられます。

お念仏のみ教えの確かさが、いよいよ頼もしく感じられます。互いに安心して、お念仏を抛り所とさせていただきますように。



定期総会
住職法話よ